

令和7年度 学校経営方針

墨田区立吾嬬立花中学校長 河野 敏也

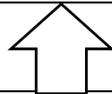
今年度の学校経営目標

文武両道の精神のもと、社会貢献できる人材を育成し、
寄り添い、共に学び、成長を喜び合う
学びたい・勤めたい・預けたいチーム吾立中

本校の教育目標

「生きる力(確かな学力 豊かな人間性 健康・体力)」を確実に育み、知徳体、調和のとれた人間を育成するため、目指す生徒像として以下を定める

- 進んで学び、深く考え、行動できる生徒
- 誠実で、思いやりのある生徒
- 自らきたえ、心身ともに健やかな生徒



◎経営の柱

- 確かな学力の定着と向上 ○思いやりと規範意識
- 信頼される学校づくり (教育課程の確実な実施)

1 目指す生徒像 【「見つめる力」「挑戦する力」「乗り越える力」「つながる力」】

- (1) 礼節を重んじ、主体的で真剣に学ぶ生徒
 - ① 授業を大切にし、積極的に授業に参加する生徒
 - ② 共に学ぶ姿勢のある生徒
 - ③ 自ら目標を設定し、よく考え、意欲的に学ぶ生徒

- (2) 人権尊重を基盤とし、自他ともに大切に思いやり溢れる生徒
 - ① 協調性があり、社会に貢献しようとする生徒
 - ② あじみこし(挨拶・時間・身だしなみ・時と場に応じた適切な言動・主体的、自律的な姿勢)の基本的な生活習慣を身に付けた生徒
- (3) 様々な困難を乗り越え、しなやかにチャレンジする前向きな姿勢を持つ生徒
 - ① 心身を鍛え、勇気をもって一步踏み出すチャレンジ精神のある生徒
 - ② できない事ができるようになる自己肯定感とレジリエンス力(回復力)を高める生徒
 - ③ 生徒会活動、委員会活動、係活動、部活動等に主体的に責任をもって取り組む生徒

2 目指す学校像【文武両道の明るく楽しい規律のある学校】

- (1) 「確かな学力の定着と向上」を図る授業改善
 - ① 教材教具、指導法の工夫改善により、分かりやすい授業、感動を喚起する授業を実践する学校
 - ② 教育DXに対応し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、生徒の夢や希望を叶えるべく可能性を伸ばす学校
- (2) 「自主・自律・貢献」を育む生徒指導・進路指導
 - ① 生徒が自らの目標を掲げ、自己調整力と創造性、貢献力の伸長に努める学校
- (3) 「自尊感情」を育む特別活動
 - ① 全ての生徒の出番がある特別活動
- (4) 「地域への愛着」を育む連携行事
 - ① 生徒と生徒、生徒と教職員、学校と家庭・地域の間に深い信頼と絆がある学校
 - ② 家庭・地域の教育力を生かす学校

3 目指す教師像【生徒とともに、互いの教師とともに、家庭・地域とともに学ぶ教師】

- (1) 学校経営方針のもと、広い視野に立ち、組織的に行動できる教師
 - ① 全教職員による協働的な指導体制のもと、教育目標を達成しようとする教師
 - ② 報告・連絡・相談・確認の情報共有と行動連携ができる教師
- (2) 常に研鑽を積み指導力を向上させるとともに、指導教諭等の授業参観や専門性向上研修等を通して、授業改善に努力する教師
 - ① 校内OJTや校内研修を充実させ、自己の能力と資質の向上に努める教師
- (3) 生徒一人一人の気持ちを理解し、どの生徒にも公正公平に対応できる教師
 - ① 保護者・地域の願いや思いを理解できる教師
 - ② いじめ・暴力・暴言等に対し、不適切な指導や体罰を伴わない毅然と指導できる教師
 - ③ 人権感覚や法令遵守の意識をもち、服務事故防止を実践できる教師

4 学校経営の基本方針

- ① 楽しく出番がある授業、分かる授業を通して思考力・判断力・表現力の育成と学びに向かう力・人間性を涵養する。
- ② 「分かった」「できた」の達成感ある学習活動を展開し、学習意欲を引き出す指導を行い適切に評価する。特に主体的に学習に取り組む態度の観点で「粘り強い取組」、「自己

を調整しようとする取組」を見とれる評価方法を各教科で確立する。

- ③ 主体的・対話的で深い学びの実現のために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現の授業改善を図る。
- ④ 「学びのユニバーサルデザイン」を取り入れた授業における「吾立スタンダード」を確立し、全ての生徒に分かりやすい達成感を感じられる教育を展開する。
- ⑤ 国・墨田区学力調査、校内実力テスト等の結果の分析や実態を把握して、課題を明確にするとともに、紙による問題データベース、デジタル教材等を活用し、家庭での学習習慣を確立する。
- ⑥ 全教育活動を通して豊かな心の基盤となる道徳心の育成を図り、差別や偏見のない人権尊重の精神を培う。
- ⑦ いじめの未然防止や早期発見・早期解決に努めるとともに「いじめをしない・させない・ゆるさない」という指導を徹底する。
- ⑧ 特別活動や総合的な時間等を通して、生徒の育てたい4つの力、「見つめる力」「挑戦する力」「乗り越える力」「つながる力」を意図的、計画的に身に付けさせる。
- ⑨ 特別支援教室において「学習と行動のチェックリスト」、「社会性・行動のチェックリスト」、「文字の読み書きチェックリスト」等を活用し、前後期1回のアセスメントを通じて個々の障がい状態を的確に把握するとともに、特性やニーズに応じて学校生活支援シート及び連携型個別指導計画等を作成し、それぞれの目標に即した指導を行う。
- ⑩ 校内支援委員会を活用しながら、特別支援教育コーディネーター・不登校巡回教員を中心に学年教員、生活指導主任、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関との連携を図り、特別支援教室では退室を、校内別室教室では教室復帰を見通して、生徒の状況に即した効果的な指導・支援を行う。